



品質良好で作業性に優れる 「ハイパーグリーンベルト」 を導入して

JA尾鈴 農産園芸部 野菜花き課 松田 光俊

JA尾鈴にら部会のみなさん(後列左端が筆者)

農協概要

宮崎県児湯郡川南町と都農町一円を管内とするJA尾鈴は、宮崎県中央の日向灘沿いに位置します。

西にはJA名称の語源でもある尾鈴山を望み、東は黒潮が流れる太平洋を眺められる農業地帯で、昭和50年に2町が合併して誕生しました。

地形は、おおむね平坦な平野部と尾鈴山に面した山岳地帯があり、地質の大部分は火山灰土で肥沃な土地が多いです。

また、気温は年平均17.8℃と年間通じ

て暖かく、農業に合う自然条件から、管内では多くの農産物が生産されています。



宮崎県児湯郡川南町

産地概要

JA尾鈴管内では、施設栽培、露地栽培ともに盛んで、主にミニトマトや大玉トマト、またキュウリ、イチゴ、スイートコーンなどが栽培されています。

管内においてニラの栽培面積は、ハウス、露地を合わせて約13ha、生産者数が35名で若い人も多く、ニラを栽培する新規就農者も少なくありません。



宮崎県産尾鈴にらのパッケージ

「ハイパーグリーンベルト」導入のねらい

昨年、ハイパーグリーンベルトを試験したところ、以下の通りの感想を持ちました。

- 草勢が強く、栽培し易い。
- 葉幅広く、肉厚で、軸の増加が少なく、過剰分げつになりづらい。
- 軸の太さにバラつきが少なく、選別、結束作業時の効率上がる。

以上の事から、本年度からは本格的な導入を始めています。

冬場の安定出荷のために

冬場の安定出荷を実現するため、基本である株養成を重要視しています。

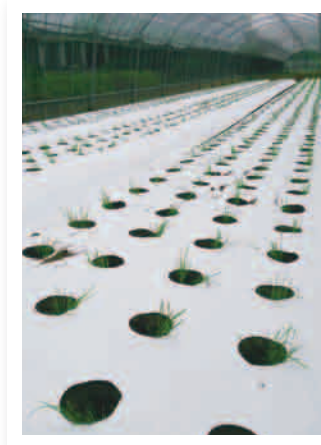
しかし、近年は夏期が高温で株養成が難しくなっているので、当JAでは暑さ対策として、遮光ネットやタイベックシートを利用した地温抑制の試験を行っています。

まだ試験途中ではありますが、地温を抑制させる事で、株張りなど、株の生長にも良い傾向が見受けられています。

実際に、地温が2~3℃低いデータも出ています。

初期投資費用が課題にはなりますが、現段階では効果が高いと感じ

ているので、徐々に増やしていきたいと考えています。



「タイベックシート」の試験風景



ハイパーグリーンベルトの栽培風景



「つくる~たべる」の取り組み

ニラを生産する「つくる」側として、「たべる」側の消費者には、ニラをより美味しく食べて頂きたいと考えています。

具体的な取り組みとして部会では、皆でアイデアを出し合うニラレシピの検討会を行っています。

「簡単・美味しい」をテーマにレシピを作成し、新しい食べ方の提案、また、評価の高いレシピについ

ては、小袋包装に印字、ホームページ上で公開、試食宣伝販売などに活用しています。



ニラレシピ検討会の様子



JA尾鈴オリジナルレシピ
「にらのレモンマヨネーズ和え」

ハイパーグリーンベルトを栽培して感じた事 ~甲斐部会長~

ニラの栽培面積は約60aで、内50aはハウス栽培になります。労力は家族3人とパートさんが3名。

ハウスでの促成栽培がメインで、夏は雨よけ栽培、出荷はほぼ1年中行っています。

ハイパーグリーンベルトは、2年間試験的に栽培してみました。

従来使用しているワンダーグリーンベルトと比較した所、分げつが少なく、軸が細くなり難いという点と、肉厚で葉色が濃く、厳寒期での優れた伸張性に魅力を感じまし

た。実際、ワンダーグリーンベルトとの伸張差が5cm程度あり、ワンダーグリーンベルトの収穫適期日数よりも早く収穫することが出来ました。

一方で分げつが少ない特性上、播種量が従来品種に比べ2倍必要になってしまったため、生産者としては、コスト面での差が若干気になる所です。

今年度からは、部会で本格的に導入していますので、自分たちの産地にあった栽培を行っていきたいと思います。



JA尾鈴にら部会 甲斐部会長

新品種紹介

春の推奨品種紹介

予告品種紹介

特集

産地情報

おすすめ品種